

## 令和4年度 学生の意識啓発に関する調査研究事業 報告書

■講座実施日／令和4年11月7日（月）

■対 象／西九州大学 子ども学科 1年生

■参加人数／80名

■アンケート実施期間／事前アンケート：10月25日（火）から13日間  
事後アンケート：11月22日（火）から14日間

■回答者数

事前アンケート：60名（対象人数：80名 回答率 75.0%）

事後アンケート：46名（対象人数：80名 回答率 57.5%）

## はじめに

アバンセでは、毎年、佐賀県内の各大学・短期大学と共催で「学生への意識啓発事業」を実施しています。

この事業では、大学、短期大学の学生の皆さんに、性別にとらわれずに自分らしく生きていくという学びを通じて、男女共同参画の意識を高めていただくために、キャリアデザインやワーク・ライフ・バランスなどをテーマにした講座を行っています。

また、講座の前後にアンケート調査を実施し、「学生の意識啓発に関する調査研究事業」として、講座に参加する前と後での学生の意識の変化に関する調査研究を実施しています。

今年度は西九州大学と共催し、子ども学科の1年生を対象に実施しました。

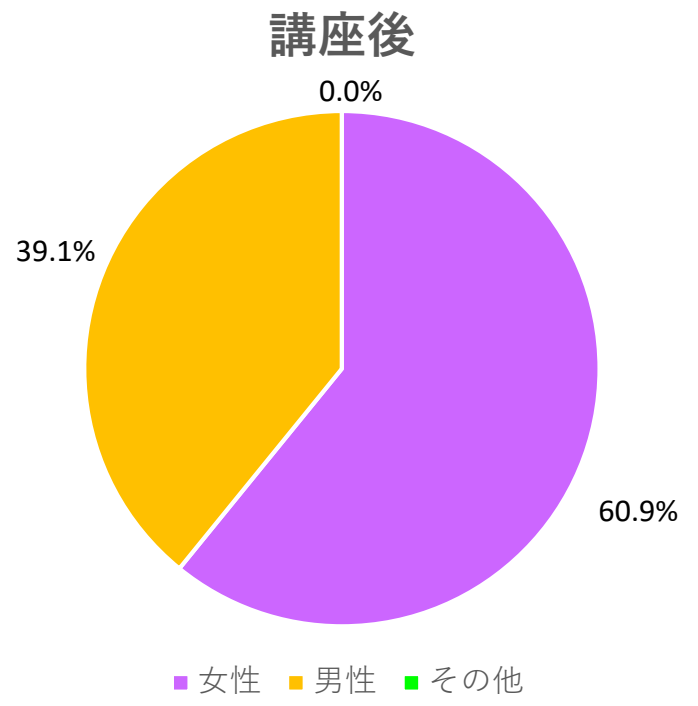
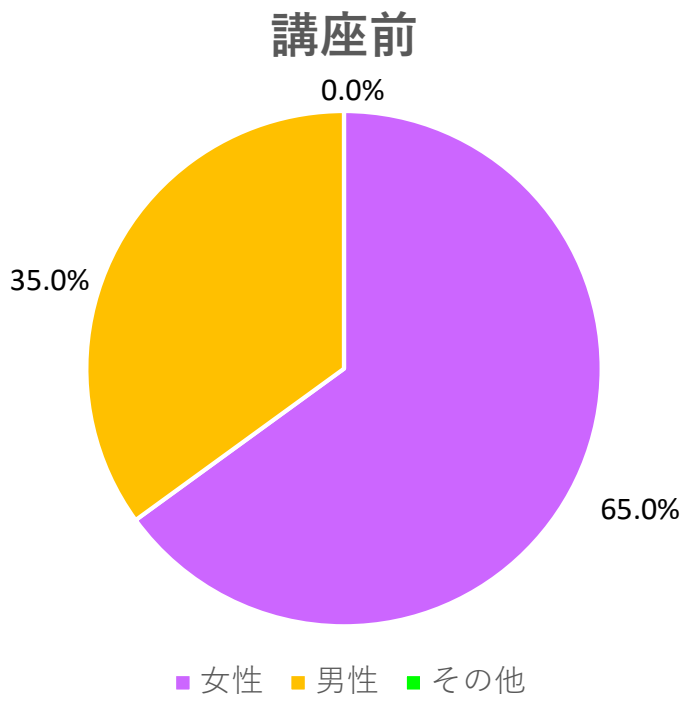
講師には、沖縄キリスト教学院大学教授の新垣 誠（あらかき まこと）さんを迎え、「男女共同参画と、その先へ ～みんなが幸せな社会とは～」のテーマで講演いただきました。

今回の講座では、男女共同参画・ジェンダー平等についての基礎的な知識や社会背景等を学び、自分自身のアンコンシャスバイアス（無意識の偏見）や多様性のある社会について考えました。海外でのボランティア活動や女性のエンパワメント事業に関わり、沖縄県内の多くの自治体で男女共同参画委員を務める新垣さんの、エネルギーで楽しいながらも真剣な講演に感銘を受けた様子がアンケートの回答からもうかがえました。

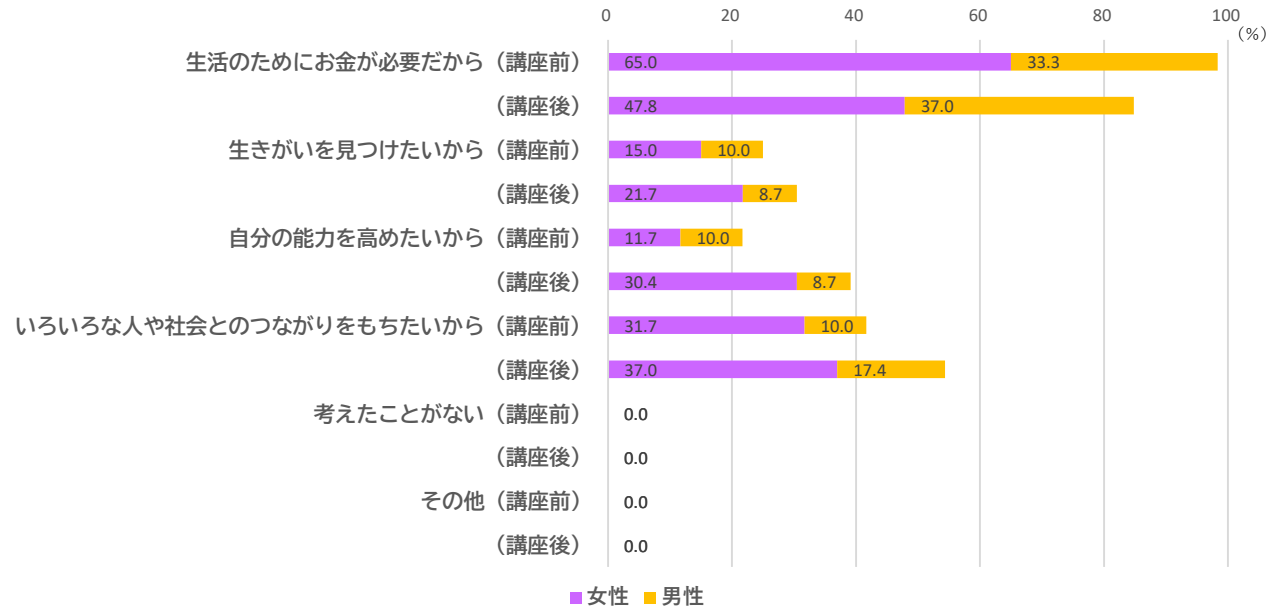
講座の前後のアンケートを通して、幼稚園教諭や学校教諭を目指す学生が、「働く」ことについてどのように考えているのか、働く目的や働く際の地域選択、女性の働き方等についての意識の変化をまとめましたので報告します。

佐賀県立男女共同参画センター（アバンセ）

性別



問1 働く目的について、どのように考えるか。(複数回答可)



～問1「その他」の回答～

【講座前アンケート】  
回答なし

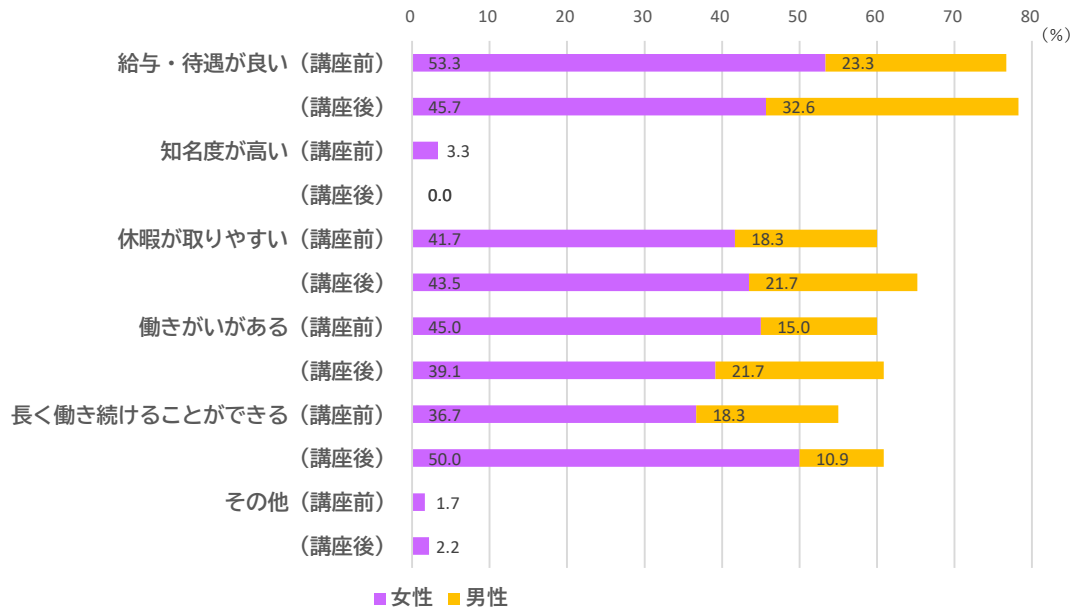
【講座後アンケート】  
回答なし

〔傾向〕

「働く目的について、どのように考えるか」の回答では、講座の前後を通して「生活のためにお金が必要だから」が最も多く、「いろいろな人や社会とのつながりをもちたいから」が続いている。

講座後の変化として、「生活のためにお金が必要だから」の回答が約14%減少し、「自分の能力を高めたいから」が約17%、「いろいろな人や社会とのつながりをもちたいから」が約13%増加している。

問2 就職先を選ぶ基準として、何を重視するか。（複数回答可）



～問2「その他」の回答～

【講座前アンケート】

・社員の人柄と社の雰囲気

【講座後アンケート】

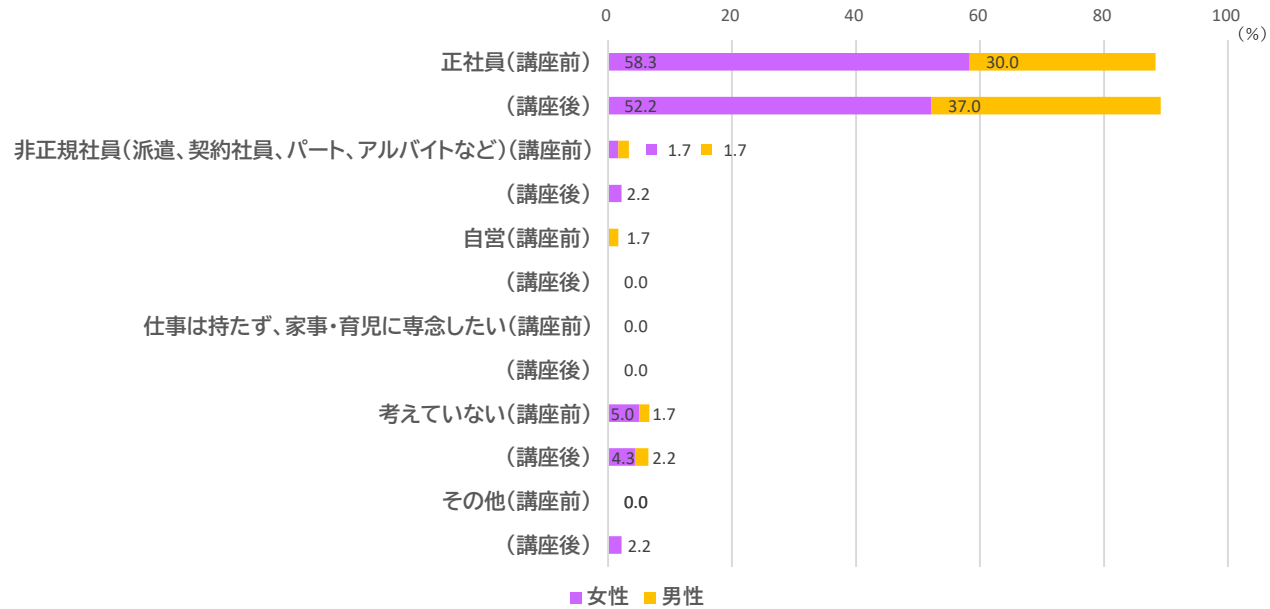
・環境、人間関係

〔傾向〕

「就職先を選ぶ基準として、何を重視するか」の回答では、講座の前後を通して「給与・待遇が良い」が最も多い。

講座後の変化として、「長く働き続けることができる」が約6%（女性に限ると約13%）増加している。また、「休暇が取りやすい」も約5%増加している。

問3 働くときには、どのような形態を選ぶか。



～問3「その他」の回答～

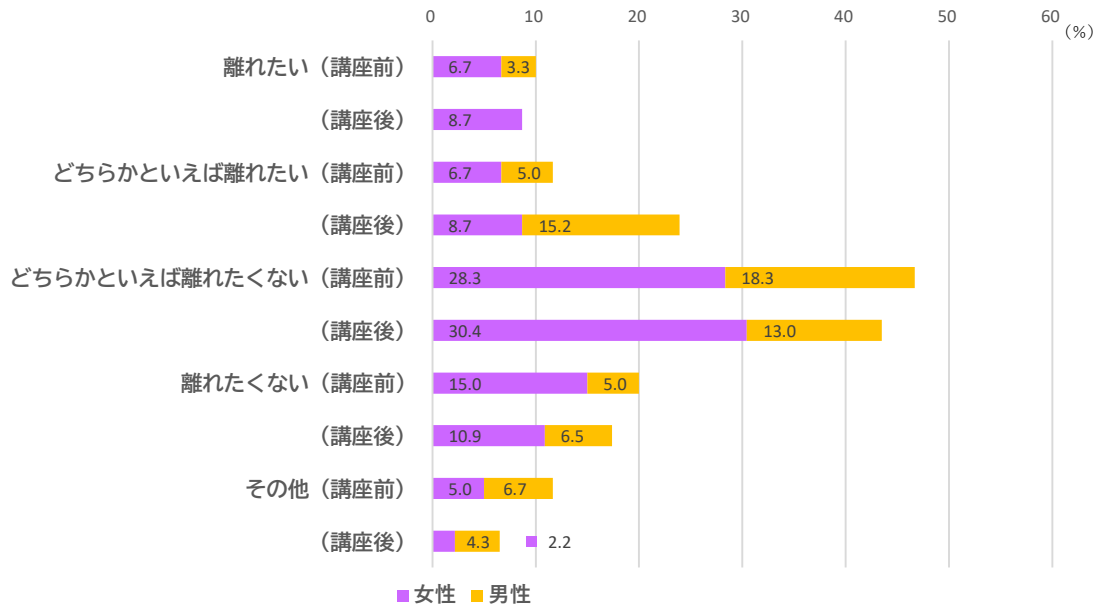
【講座前アンケート】  
回答なし

【講座後アンケート】  
・公務員

〔傾向〕

「働くときには、どのような形態を選ぶか」の回答では、講座の前後を通して「正社員」が最も多い。講座後の変化は、ほとんどなかった。

#### 問4 働くときは、地元を離れたいか。



～問4「その他」の回答～

#### 【講座前アンケート】

- ・どちらでもいい（4件）
- ・離れたくはないが、都心でやりたい  
仕事があれば離れなければならない
- ・どうでもいい
- ・考えていない

#### 【講座後アンケート】

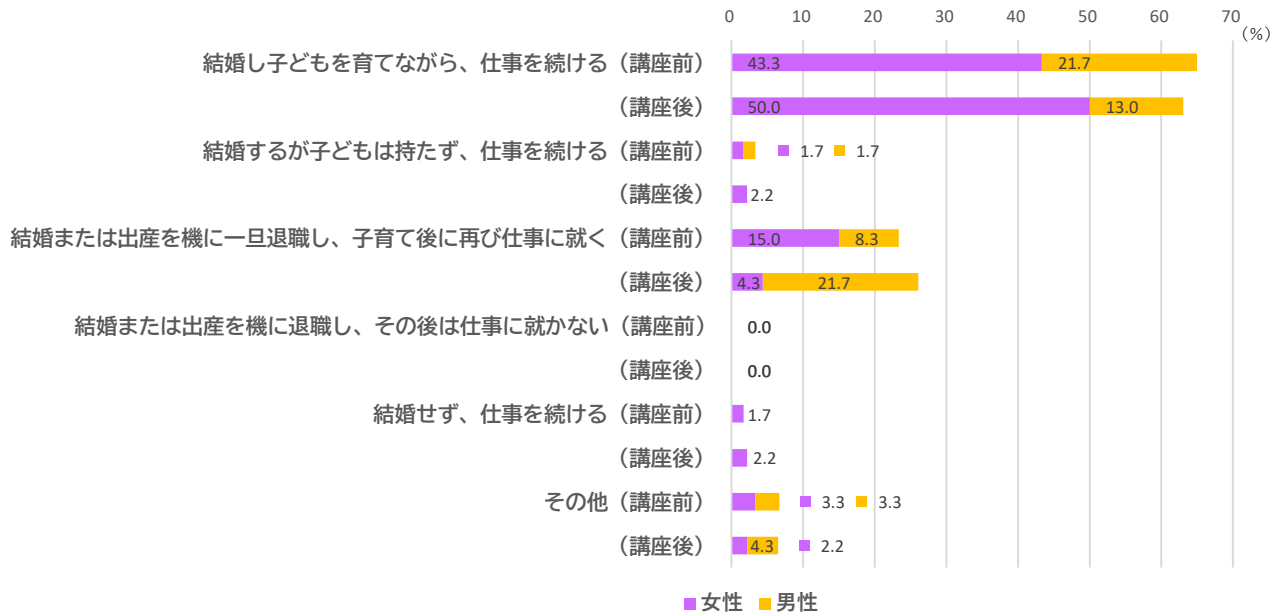
- ・どちらでもいい（2件）
- ・時と場合

#### 〔傾向〕

「働くときは、地元を離れたいか」の回答では、講座の前後を通して「どちらかといえば離れたくない」が最も多い。

講座後の変化として、「離れたい」「どちらかといえば離れたい」を合わせた割合は約11%増加し、それに伴って「離れたくない」「どちらかといえば離れたくない」を合わせた割合が約6%減少している。

問5 女性の働き方について、次のどの考えに最も近いか。



～問5「その他」の回答～

【講座前アンケート】

- ・どちらでもいい
- ・育休してそのあと仕事に戻る
- ・仕事は続けるが、結婚・出産の有無は問わない
- ・働きたかったら働けば良いと思う

【講座後アンケート】

- ・相手の考え方次第
- ・働きたいなら働いてくれ
- ・働きながら結婚するかどうかを自由に選ぶ

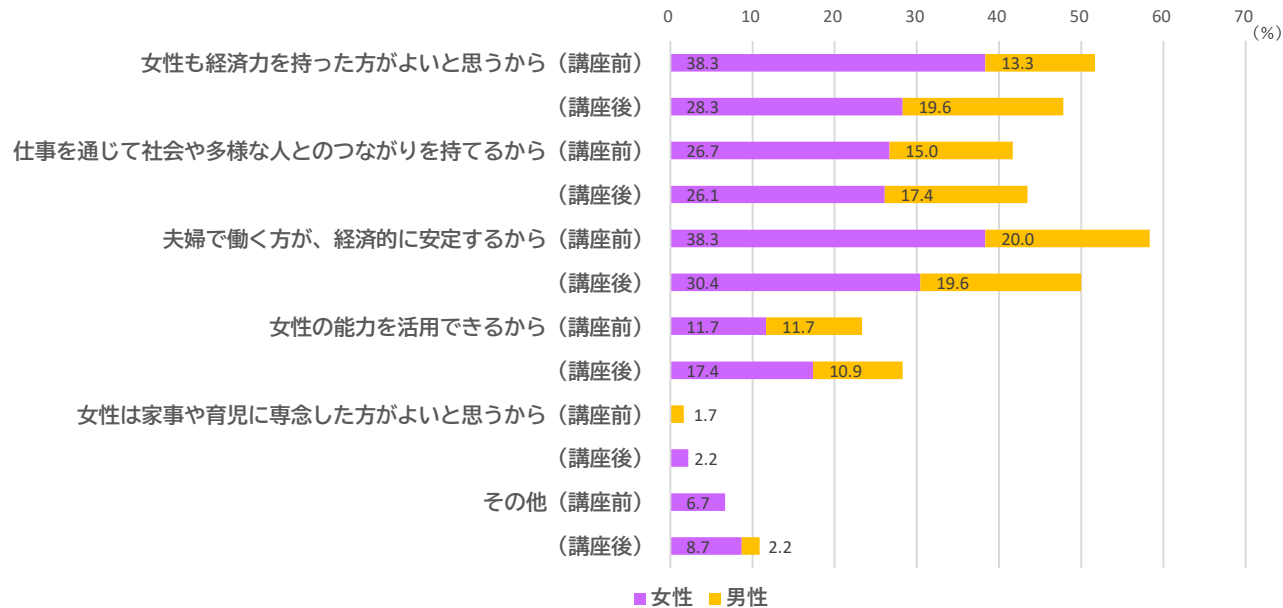
〔傾向〕

「女性の働き方について、次のどの考えに最も近いか」の回答では、講座の前後を通して「結婚し子どもを育てながら、仕事を続ける」が最も多く、「結婚または出産を機に一旦退職し、子育て後に再び仕事に就く」が続いている。

講座後の変化として、「結婚し子どもを育てながら、仕事を続ける」が約2%減少（女性は約7%増加、男性は約9%減少）しており、「結婚または出産を機に一旦退職し、子育て後に再び仕事に就く」が約3%増加（女性は約11%減少、男性は約13%増加）している。



問6 女性の働き方について、問5の回答のように考えるのはなぜか。(複数回答可)



～問6「その他」の回答～

【講座前アンケート】

- ・息抜きの1つとして
- ・子ども要らない
- ・自分がそうしたいから
- ・女性も自由に働ける環境で仕事がしたいから

【講座後アンケート】

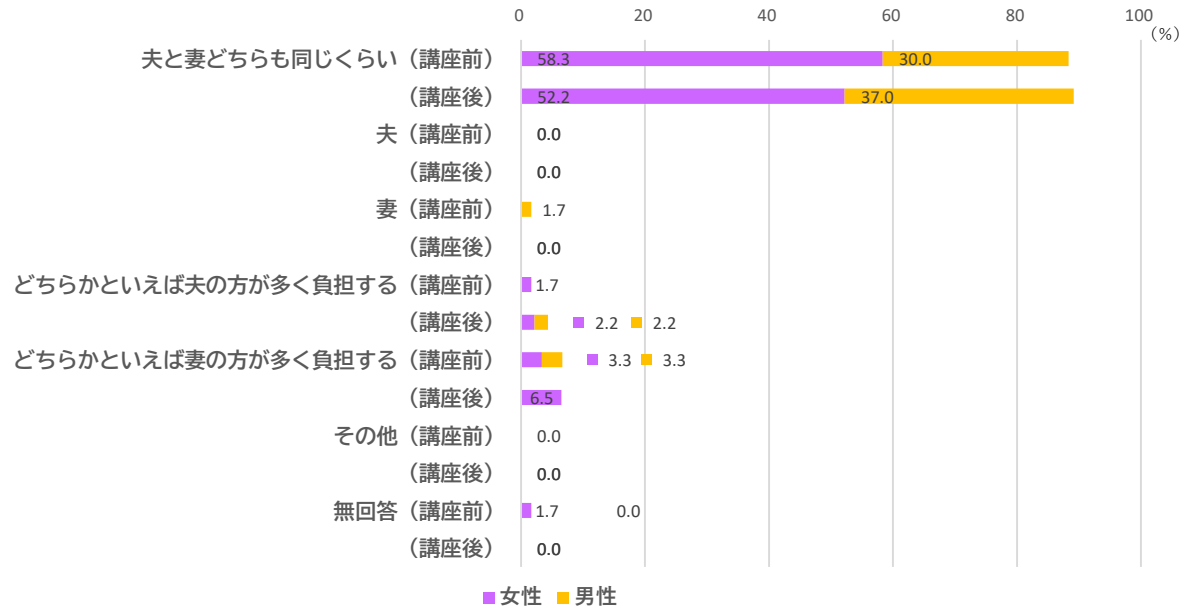
- ・せっかく取得した資格や勉強したことがあるのに出産や結婚を機に辞めるのはもったいないから
- ・仕事したいなら理由はいらないから
- ・自由に生活できることが第一だと考えるから
- ・働きたいなら働けばいいと思う
- ・男がいない

〔傾向〕

「女性の働き方について、問5のように考えるのはなぜか」の最も多い回答が、講座前には「女性も経済力を持った方がよいと思うから」となり、講座後には「夫婦で働く方が、経済的に安定するから」となっている。

講座後の変化として、「女性も経済力を持った方がよいと思うから」が約4%、「夫婦で働く方が、経済的に安定するから」が約8%減少している。また、「女性の能力を活用できるから」が約5%、「仕事を通じて社会や多様な人とのつながりを持てるから」が約2%増加している。

問7 結婚したら家事や育児は誰が担うのが理想か。



～問7「その他」の回答～

【講座前アンケート】  
回答なし

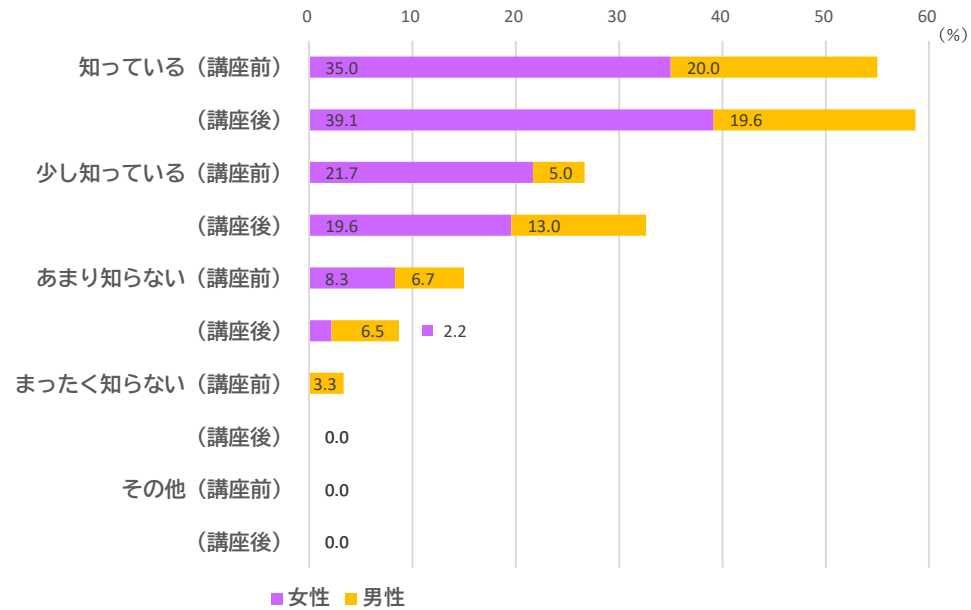
【講座後アンケート】  
回答なし

〔傾向〕

「結婚したら家事や育児は誰が担うのが理想か」の回答では、講座の前後を通して「妻と夫どちらも同じくらい」が最も多い。

また、講座後の変化として、「妻」「どちらかといえば妻の方が多く負担する」と回答した男性がゼロとなっている。

問8 「ワーク・ライフ・バランス」について知っているか。



～問8「その他」の回答～

【講座前アンケート】  
回答なし

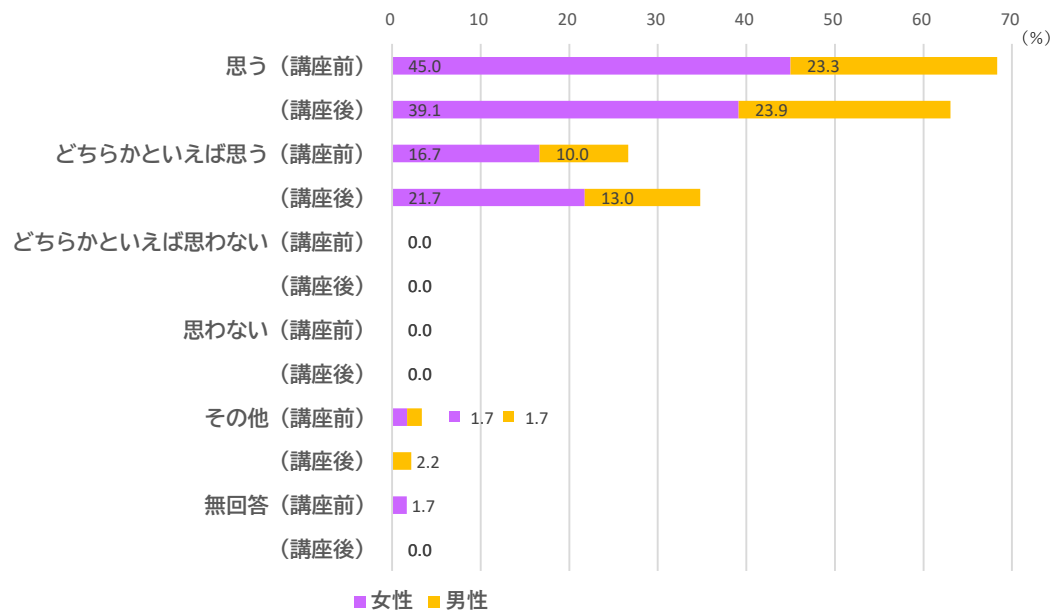
【講座後アンケート】  
回答なし

〔傾向〕

「ワーク・ライフ・バランスについて知っているか」の回答では、講座の前後を通して「知っている」が最も多く、以下「少し知っている」「あまり知らない」が続いている。

講座後の変化として、「知っている」が約4%、「少し知っている」は約6%増加した。それに伴い、「あまり知らない」は約6%減少し、「まったく知らない」がゼロとなっている。

問9 政治や行政、企業他あらゆる分野の役職に今後女性が増えた方が良いと思うか。



～問9「その他」の回答～

【講座前アンケート】

- ・有能だったら増えてくれ
- ・どうでもいい

【講座後アンケート】

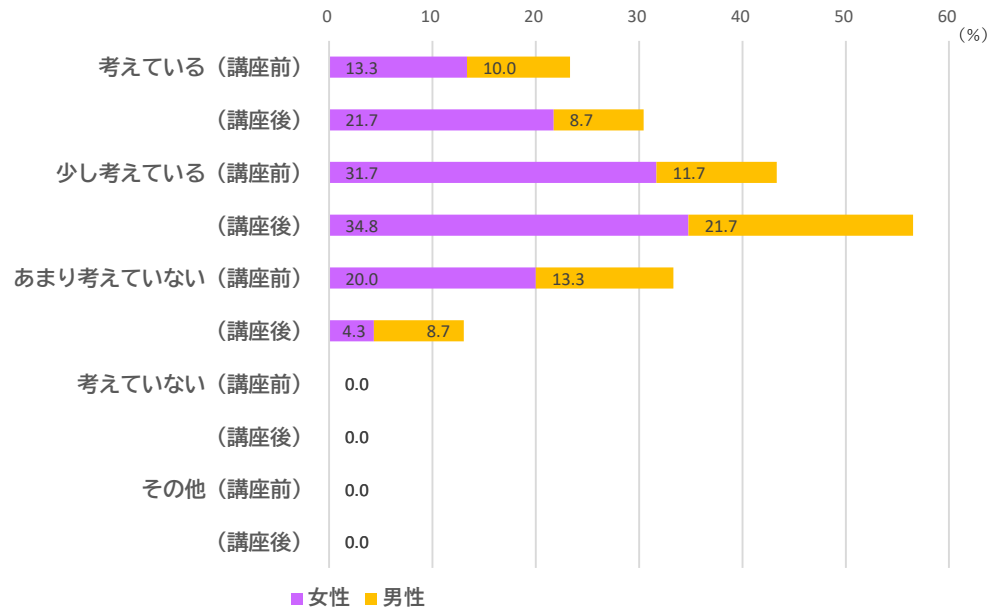
- ・有能なら増えて欲しい

〔傾向〕

「政治や行政、企業他あらゆる分野の役職に今後女性が増えた方が良いと思うか」の回答では、講座の前後を通して「思う」が6割を超えて最も多く、「どちらかといえば思う」が続いた。また、講座の前後を通して「どちらかといえば思わない」「思わない」の回答はゼロとなっている。

講座後の変化として、「思う」が約5%減少し、それに伴って「どちらかといえば思う」が8%増加している。

問10 将来に向けて、今何をすべきか考えているか。



～問10「その他」の回答～

【講座前アンケート】  
回答なし

【講座後アンケート】  
回答なし

〔傾向〕

「将来に向けて、今何をすべきか考えているか」の回答では、講座の前後を通して「少し考えている」が最も多く、「考えていない」はゼロとなっている。

講座後の変化として、「考えている」が約7%、「少し考えている」が約22%増加し、それに伴って、「あまり考えていない」が約20%減少している。

## まとめ

今回、「学生への意識啓発事業」の講座の前後に実施したアンケートの結果から、西九州大学 子ども学科 1 年生の意識変化について、以下のとおり推察しました。

### ○働く目的について

問1「働く目的について、どのように考えるか」では、「生活のためにお金が必要」と答えた割合が最も高く、多くの学生が生計を立てるために働くという考えを持っていると考えられます。また、講座後には「自分の能力を高めたいから」への女性の回答が著しく増えています。これは、講座の中で企業や社会におけるジェンダーの現状について触れたことで、この現状に対して、能力を高めることで対応しようと考えたことがうかがえます。

### ○就職先を選ぶ基準について

問2「就職先を選ぶ基準」では、講座の前後とも給与や待遇面が最も重視されています。また、講座後には「長く働き続けることができる」への女性の回答が増えました。これは、講座の中で男性と女性が協力して家事・育児を行うことについて触れたことで、結婚や出産があっても退職する必要はないと考えたことがうかがえます。

### ○働くときの形態について

問3「働くときには、どのような形態を選ぶか」では、講座の前後とも9割近くが「正社員」と回答しており、大半の学生が安定した雇用形態を望んでいることがわかります。他の回答は講座の前後でほとんど変化がなく、働くときの形態を選ぶことに講座の影響はほとんどなかったと考えられます。

### ○働くときに地元を離れることについて

問4「働くときには、地元を離れたいか」では、「離れたくない」「どちらかといえば離れたくない」の地元志向の割合が6割以上と高いものの、講座後には減少しています。また、「離れたい」「どちらかといえば離れたい」という中央志向・都市部志向の割合は2割程度から3割程度へ増加しています。これらは、講座の中で日本のジェンダーの現状や職場環境について触れたことで、地方よりはジェンダーの課題や古い家族観があらわれにくい中央・都市部への志向が強まったことがうかがえます。

- ・地元志向の割合 (講座前) 66.6% (講座後) 60.8% ※「離れたくない」「どちらかといえば離れたくない」の合計
- ・中央・都市部志向の割合 (講座前) 21.7% (講座後) 32.6% ※「離れたい」「どちらかといえば離れたい」の合計

### ○女性の働き方に対する考え

問5「女性の働き方について、次のどの考えに最も近いか」では、講座の前後を通して「結婚し子どもを育てながら、仕事を続ける」の回答が最も多く、受講の前後で割合の変化もほとんどありませんでした。これは講座の以前から、結婚・出産と仕事の両立を求めていると考えられます。

また、講座後の女性については「結婚し子どもを育てながら、仕事を続ける」が増加して、「結婚または出産を機に一旦退職し、子育て後に再び仕事に就く」が減少しています。これは講座の中で、男性と女性が協力して家事・育児を行うことに触れたことにより、家庭と仕事が両立できると考えたことがうかがえます。

講座後の男性については「結婚し子どもを育てながら、仕事を続ける」が減少して、「結婚または出産を機に一旦退職し、子育て後に再び仕事に就く」が増加していますが、これについてはどのような可能性が考えられるか、慎重に検討する必要があります。

### ○女性の働き方に対する考えの理由について

問6「女性の働き方について、問5のように考えるのはなぜか」では、「夫婦で働く方が、経済的に安定するから」と「女性も経済力を持った方が良いと思うから」という経済の面を重視した回答の割合が多いものの、講座後にはどちらも減少しています。それに合わせて他の回答が増加し、講座前よりも突出した考えや傾向が捉えにくくなっています。これは講座の中で、男女共同参画の歴史や人権の視点に触れたことで、経済の視点以外に、女性の自己実現や人権に対する意識が高まり、多様な視点を得ることができたことがうかがえます。

### ○夫婦の家事分担について

問7「結婚したら家事や育児は誰が担うのが理想か」では、「夫と妻どちらも同じくらい」と回答した割合が大多数を占めており、講座の前後でほとんど変化していません。また、講座前には「妻」「どちらかといえば妻の方が多く負担する」への男性の回答がごく少ないもののありましたが、講座後にはゼロとなりました。これは、講座の中で男性と女性が協力して家事・育児を行うこと、性別に対するアンコンシャス・バイアスについて触れたことで、男性の考え方に変化が起こったことがうかがえます。

### ○ワーク・ライフ・バランスの認知度について

問8「ワーク・ライフ・バランスについて知っているか」については、講座前から認知度は高く、講座後にはさらに「あまり知らない」「まったく知らない」の回答が減っています。これは、講座の中で男性の家事・育児への参画とそのため社会づくりが必要なことを学び、ワーク・ライフ・バランスへの理解がさらに進んだことがうかがえます。

### ○女性の役職への登用について

問9「政治や行政、企業他あらゆる分野の役職に今後女性が増えた方がよいと思うか」については、講座の前後を通して「思う」と答えた割合が多く、「どちらかといえば思う」を含めると大多数が女性の役職が増えることに賛同していることがわかります。また、講座の前後を通して「どちらかといえば思わない」「思わない」の回答はゼロとなりました。女性の役職への登用について、大学生の考えと、現実の社会に違いがある現状がわかります。

### ○将来に向けての準備について

問10「将来に向けて、今何をすべきか考えているか」では、講座の前後を通して「少し考えている」と答えた割合が多くなりました。講座後に「あまり考えていない」が著しく減り、「考えている」「少し考えている」が増加していることから、講座を受講したことが、自身のキャリアやワーク・ライフ・バランスについて考える機会になったことがうかがえます。

今回の講座は、男女共同参画・ジェンダー平等についての基礎的な知識や社会背景等を学び、自分自身のアンコンシャスバイアス（無意識の偏見）や多様性のある社会について考える「広い視点の学び」とともに、講師の経験や視点を踏まえた、家庭内やパートナーとの生活における男女共同参画や人権の実現という「身近な視点の学び」にも触れる内容となりました。

今後、職場や家庭において、ジェンダー意識やアンコンシャス・バイアスに縛られることなく考える・判断するための新たな視点を提供する機会になったのではないかと考えます。